

重点地域の色彩ガイドラインの考え方

重点地域の

色彩ガイドラインの

提案

5-1-1 重点地域について

県内には、独自の景観条例を施行している市町や、住民が主体となって景観形成住民協定を締結している地区があります。

これらの地域や地区は、独自の景観形成基準や指針を設けており、景観形成地域に準じた景観づくりを進めています。

ここでは、これらの地域・地区のうち、県の景観施策のうえでも重要な役割を担う、熊本市中心部の2つの地域と、歴史的な面影を残す3つの歴史的まちなみ地区を重点地域としてとりあげ、その色彩ガイドラインを提案します。

- 1—熊本城周辺地域
- 2—水前寺・江津湖周辺地域
- 3—歴史的まちなみ地区
 - 熊本市川尻地区
 - 菊池市御所通り地区
 - 不知火町松合本通り地区

5-1-2 色彩ガイドラインの位置づけ

- 1—熊本城周辺地域
 - 2—水前寺・江津湖周辺地域
- 熊本市では、『熊本市都市景観条例』により、大規模建築物等景観形成指針を定めています。さらに、上の2つの地域については、地域特別指針を設け、特別な配慮を要請しています。ここでは、両地域における色彩景観づくりの方向性や、両地域にふさわしい色彩と配色を提案します。

- 3—歴史的まちなみ地区
- ここに挙げた歴史的まちなみ地区では、それぞれの地区において、住民が主体となった積極的な景観づくりが進められており、熊本県景観条例第16条に基づき、景観形成住民協定として県知事の認定を受けています(熊本市川尻地区を除く)。

ここでは、熊本を代表する3つの歴史的まちなみにおける色彩景観づくりの方向性や、これらの地域にふさわしい色彩と配色を提案します。

5-1-3 重点地域における届出と手続き

重点地域における届出や手続きは、『熊本市都市景観条例』や各地区の景観形成住民協定などの定めるところに従って進めてください。

熊本城周辺地域

5-2-1 熊本城周辺地域の範囲
 熊本市が指定する熊本城周辺地域は、下の図に示した、熊本城を中心とする地域です。

5-2-2 景観形成の基本的考え方

熊本城は県都熊本市を代表する歴史的遺産であることから、熊本市の都市イメージを高めていくために、以下に示すような「熊本城を要とした景観づくり」を進めます。

●1ーランドマークとしての熊本城への眺望の確保
 天守閣をはじめ、櫓、石垣、樹木等の熊本城のイメージを喚起するものが周囲の市街地から可能な限り見えるようにします。

●2ー熊本城からの眺望の確保
 熊本市を代表する「都市景観の構図」である、遠景の山脈と近景の城内の樹木、およびそれらには含まれた市街地の眺望景観を可能な限り確保します。

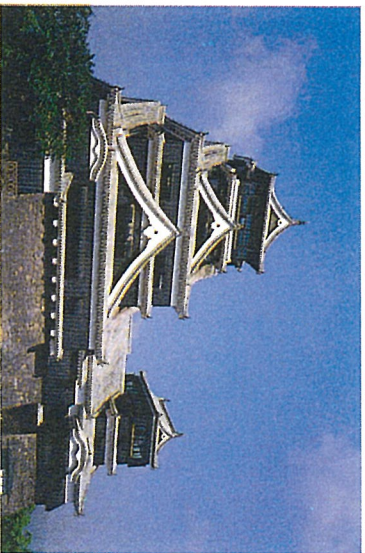


写真 熊本城



写真 熊本城天守閣から見た熊本市街

●3ー市街地と熊本城との間のゆとりある眺望の確保
 熊本城域縁辺部の石垣と坪井川に直接接する市街地では、熊本城との間にゆとりある眺望を確保します。

5-2-3 熊本城周辺地域の景観形成指針

熊本市では、次の表のような景観形成指針と地域特別指針を設定しています。

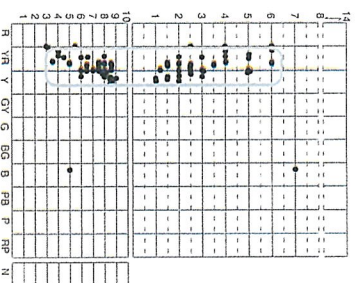
表 熊本市大規模建築物等景観形成指針(色彩に関するもの)

建築物 工作物	外観	景観形成指針
建築物	外観	基調となる色は、周囲の自然やまちなみの色調と調和したものとし、アクセントとなる色はごく限られた箇所に限定するように努めること。
工作物	外観	建物や周辺の色彩との調和を図ること。配色数は可能な限り少なくするように努めること。
広告物	外観	建物や周辺の色彩との調和を図ること。配色数は可能な限り少なくするように努めること。
さく 堀	外観	色彩は周囲の自然やまちなみの色調と調和したものとし、アクセントとなる色はごく限られた箇所に限定するように努めること。

表 熊本城周辺地域特別指針(色彩に関するもの)

建築物 工作物	外観	景観形成指針
建築物	外観	建築物等は、地蔵の雰囲気や損なわな形状や色彩とするとともに、城内の高い所からの視線に配慮して屋上やバルコニーを緑化するなどの修景を行うこと。

●外壁基調色の分布



明度・彩度にはばらつきがありますが、ほとんどどの建物はYR(黄赤)系、Y(黄)系の色相を基調としており、典型的な「色相調和型」のまちなみになっています。

熊本城周辺地域

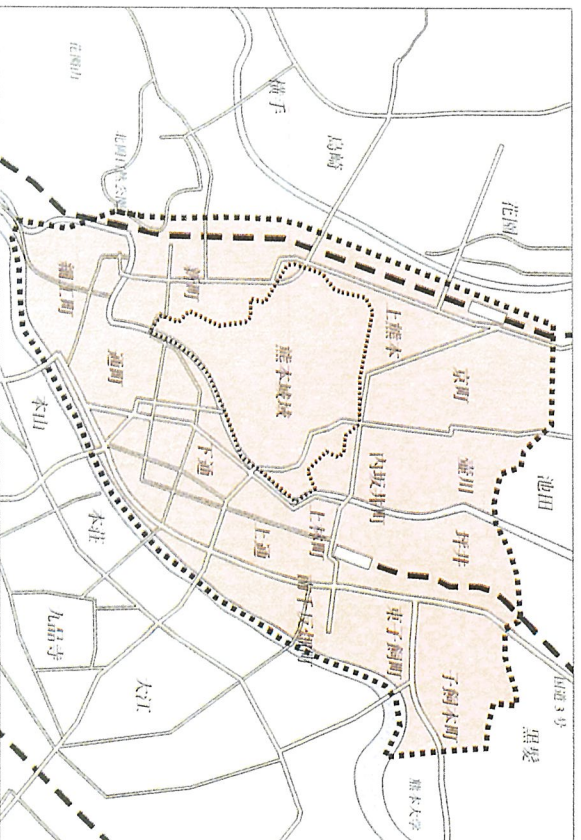


図 熊本城周辺地域の範囲

5-2-4 熊本城周辺地域の色彩ガイドライン案

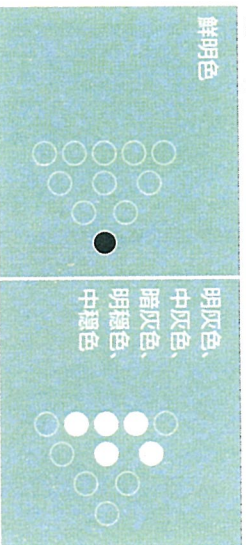
熊本城からの眺望に基調色を感じさせるようにしよう

熊本城の経済の中心地であるこの地域には、比較的大規模の大きい建物が数多く集積しています。現況においてはYR(黄赤)系やY(黄)系色相の建物が多くを占めていますが、これとは異なる色相の数が少ない建物がまちなみの基調色を乱しています。

活発な経済活動に伴う幅広い建築物や工作物の整備を想定して、色彩ガイドラインでは、鮮明色を除く幅広い色彩を選択肢に含めています。

■表 熊本城周辺地域の外壁基調色の色彩ガイドライン案

選んだ方がよいトーン(●) 推奨トーン(○)



これらのトーンの中でも、落ちつきのある左下の図のようなトーンを推奨します。

熊本城の周囲には威厳のある天守閣と調和するよう、明るさを抑えた建築物も多く見られます。こうした建物のように、中穏色や暗穏色などを用いると、より落ちつきのある景観をつくり出すことができます。

また、有彩色を用いる場合は、Y(黄)系やYR(黄赤)系の色相を中心に用い、「色相調和型」の色彩景観をより明確なものにしましょう。

■屋上広告の設置を控えよう

熊本城周辺地域は、同規模の都市と比較すると屋上広告の掲出数は少ないと思われま

す。対比的な色使いが中心の屋上広告の設置を控え目にすることも、まちなみの色彩が風格を増すはずですが、少なくとも現状を維持し、更新に際しては、色彩のトーンを落とすなどして、景観の維持・改善に努めましょう。

■熊本城周辺地域の推奨配色

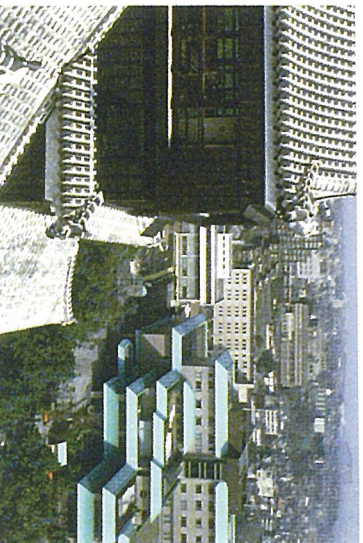
17-80D(7.5YR8/2)	15-60F(5YR6/3)	22-60D(2.5Y6/2)	15-55B(5YR8.5/1)	22-85C(2.5Y8.5/1.5)

写真 熊本城周辺地域の現状

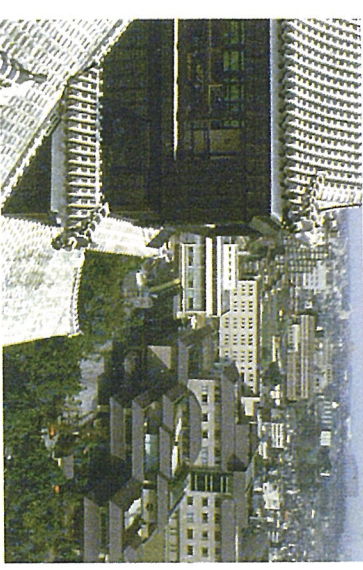


塔屋広告などが目立つ熊本城周辺の現状

写真 景観色彩シミュレーション



熊本城周辺地域の景観と対比的な例



熊本城の屋根瓦と対比の少ない色彩に変更した例

●左一暖色系色相の明穏色と中穏色のストライプで、落ちつきの中にも変化を感じさせる配色としています。[大きくまもと景観賞・チーフ賞(景観に配慮した色彩)]平成4年受賞

●右一熊本城周辺地域の建物の多くはYR(黄赤)系、Y(黄)系などの色相を基調としています。熊本城から眺める市街は、広告物などによって基調色を感じさせないまちなみになっています。

この地域の景観の核はいまでもなく熊本城です。屋根や外壁の色彩は、こうした景観の核とあわせたり、対比の弱いものを選ぶ必要があります。

色彩を共有することで、景観の核と一体感のある質の高いまちなみが形成されるのです。